

タイワンザル (*Macaca cyclopis*)

1. 評価ランク：

2. 原産地： 台湾

3. 定着実績： 青森県下北半島、伊豆大島、和歌山県北部などに定着

4. 評価の理由

- ・ ニホンザルが生息可能な環境では本種も生息が可能であり、すでに和歌山県及び青森県でニホンザルとの交雑が確認されており、遺伝的かく乱により在来の生態系に被害を及ぼすおそれがある。
- ・ 一部地域では被害対策として捕獲等が進められている。

5. 被害の状況（代表的な事例）

（1）生態系に係わる被害

- 和歌山県等で確認されたように、自然状態でニホンザルと容易に交雑し、雑種も稔性を持つため、ニホンザルの遺伝子汚染が指摘されている（文献 ）。

（2）農林水産業に係わる被害

- 果実、畑作物への農業被害報告されている（文献 ）。

6. 影響をもたらしている要因

（1）生物学的要因

- ニホンザルが生息可能な環境には本種も生息が可能である。
- 増加率は高くないが、比較的長寿命で、安定した繁殖を行っている。
- すでにニホンザルとの雑種が形成されている。
- 手先が器用であり、飼育施設からの逃亡を起こしやすいことが懸念される。

（2）社会的要因

- 群れを飼育している展示施設等がかなりあるものと推測され、逃亡や遺棄が起こる可能性がある。

7. 特徴ならびに近縁種、類似種などについて

- 頭胴長 40～54cm、尾長 頭胴長の7割程度、体重が6～10kg程度。

8. その他の関連情報

- 天然記念物下北半島のニホンザルとの交雑を防ぐために、青森県では 68 頭のタイワンザルがすべて捕獲された。和歌山県でも捕獲が継続されている。
- 捕獲に関しては動物愛護の観点から議論が起きている。
- 日本霊長類学会が交雑群の除去、対策の強化を関係県知事に要望している。

9. 主な参考文献

川本芳・白井啓・荒木伸一・前野恭子(1999) 和歌山県におけるニホンザルとタイワンザルの混血事例, 霊長類研究 15:53-60.

Hsu, Minna J.; Agoramoorthy, Govindasamy; Lin, Jin-Fu (2001) Birth Seasonality and Interbirth Intervals in Free-ranging Formosan Macaques, *Macaca cyclopis*, at Mt. Longevity, Taiwan, Primates, 42:15-26.

前川信悟(2002) 移入タイワンザルの拡散仮定と雑種化の研究, 霊長類研究所年報 32:105 .
日本生態学会編(2002) 外来種ハンドブック, 地人書館, 390pp.

下北半島のサル調査会(2004) 下北半島のサル:2003年度(平成15年度)調査報告書, 84pp.

白井啓(1999) 下北半島におけるタイワンザルの現状、モンキー219・220:20-24

和歌山県サル保護管理計画 <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/>

[saruhogokanri/tokuteikeikaku/tokuteikeikaku.html](http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/saruhogokanri/tokuteikeikaku/tokuteikeikaku.html)

和歌山タイワンザルワーキンググループ(2002) 和歌山県に生息するタイワンザル個体群の生息実態調査, 56pp.